

イザベル・シュナイダー(写真家)

1954年スイスのズーリックに生まれる。父親の仕事の関係で11才の時にドイツに移住。

1973年高校卒業後、イタリアのフローレンスの大学でアートヒストリーを専攻する傍らイタリア語をマスター。しかしじきにアートヒストリーの勉強だけでは空き足らず何かを創造したい願望にかられ、スイスに戻りズーリックアートスクールで写真、テキスタイル、木彫、メタル等を学ぶ。

卒業後2年間アートを教えた後、セントラルアメリカ、南アメリカへの旅に出る。旅をしながら現地の人々からテキスタイルの技術を習ったり、絵を描いたり、スペイン語を習うと共にプランテーションで働くなど様々な経験する。

しかし2年後、1977年に肝炎を煩いやむなく帰国、1年間病床生活を送る。回復後数年間は、写真とデザインを教えながら数々のプロジェクトを手がける。

1984年アートフォトグラファー、アレックス・カイザーと働くためにニューヨークに渡る。プロジェクトを通して写真の世界にすっかり魅了されたイザベルは、ニューヨークに引越し写真家になる事を決意。しばらく有名写真家達のアシスタントを勤めた後、アニー・リポビッツから写真家として独り立ちするように勧められる。

イザベルのフォトグラファーとしてのキャリアはその後瞬間にテイクオフし、1年後にはパリでアメリカンボーグ誌をはじめ様々なインターナショナルマガジンからコンスタントに仕事の依頼が来るようになり、その後数年間は休む暇も無く世界中をまたにかけて活躍する。

しかしそうした生活にも疲れ、1990年の結婚を機にロサンゼルスに移り、自分達の夢の家とスタジオの建設に専念する。同時に今までやりたかったポートレートに専念するためにファッション界を去り、映画スター、ミュージシャン、スポーツ選手等のポートレートを撮り始める。

今日に至るまで彼女は、ローリングストーン、インタビュー、イタリアンボーグ、アメリカ、イギリス、ドイツのGQマガジン、FLAUNT等、世界の様々な有名誌のカバーを始め、雑誌のエディトリアル、映画のポスター、CDカバー、プリントアド等、幅広い分野でポートレートを撮り続けている。

去年9月にはドイツのミュンヘンのギャラリーでハリー・ベリー、ディンゼル・ワシントン、トビー・マグワイヤなどのハリウッドスター達とヌードを組み合わせた作品64点を展示する「ハリウッド・ポートレート」という個展を開いた。今年はBB King、George Clinton等を始めとする有名ジャズミュージシャンのポートレートの写真展とその写真集の制作が予定されている。

イザベルは自分の作品は人生における様々な経験に負うところが多いと語る。特に南アメリカで過ごした2年間は彼女に人間の内面を垣間見るユニークな知覚を与えてくれたとの事。東洋哲学、日本の文化、アートに非常に興味を持っており、彼女の夢のひとつは相撲力士の写真撮る事である。